

実践的「プロジェクト・マネジメント手法」養成講座

事業ビジョン・コンセプト&アクションプラン

(目標展開検討報告書&重点課題実行計画書・作業工程表)

=テーマ=

「安全・安心・笑顔」で暮らせる「やまがたプラン」づくりのために・・・
「山形に住んでいるみんなで山形を元気にする」

2006-2-18

(有)SKソリューションズ

黒沼貞志

Contents

- はじめに

- 目標展開検討報告書
「<安全・安心・笑顔>で暮らせるくやまがたプラン>づくりのために…」
「山形に住んでいる皆さんで山形を元気にする」

- 重点課題実行計画書&同作業工程表
「<安全・安心・笑顔>で暮らせるくやまがたプラン>づくりのために…」
「山形に住んでいる皆さんで山形を元気にする」



はじめに

本報告は山形県生涯学習文化財団・地域づくり協働WS実行委員会主催のH17年度地域づくりグループ連携広域学習事業として企画された実践的「プロジェクト・マネジメント手法」養成講座の一つの成果であり、ワークショップ(WS)で仮設定したテーマについて参画者による協働作業により実施したブレインストーミングから始まる目標展開作業・ビジョン・コンセプト作成、重点課題抽出、実施のための実行計画書、作業工程表を網羅するアクションプランの策定までを纏めております。

この演習(協働WS)にて体得した実践スキルを机上のものとするか否かは講座受講者一人一人の個々の課題における今後の実行如何に掛かっていると言えます。

実行を通して発生する新たな諸課題・問題も今回の協働作業を通じて体得した手法・スキルを試す機会と捉え、繰り返し使ってみるにより自らの身についたスキルになるものと革新しております。

日々の生活・仕事・その他の領域にて常に

「好奇心」「アンテナの高さ」「アンテナの感度」

を武器にチャレンジし、その上で、

【 決断力 】

【 スピード 】そして

【 コラボレーション(協働) 】を!!!

目標展開検討報告書

「＜安全・安心・笑顔＞で暮らせるくやまがたプラン＞づくりのために・・・」

「山形に住んでいる皆さんで山形を元気にする」

実践的「プロジェクト・マネジメント手法」養成講座

「安全・安心・笑顔」で暮らせる「やまがたプラン」づくりのために・・・

= 目標展開検討報告書 =

2006年1月
(有)SKソリューションズ
黒沼貞志

1. はじめに

本検討報告書は、山形県生涯学習文化財団・地域づくり協働WS実行委員会主催のH17年度地域づくりグループ連携広域学習事業として企画された実践的「プロジェクト・マネジメント手法」養成講座で実施された「目標展開手法」演習の一つの成果であり、仮設定したテーマのビジョン・コンセプト作成、重点課題抽出とその実施のためのアクションプラン策定のために、以下に述べる目的(効果)の下で協働ワークショップにて実施した目標展開について取り纏めています。

- (1) 事業の目標の確認及び明確化ができる
- (2) 目標達成のための手段の見落としをなくす(階層構造としての把握)
- (3) 団体、関係者と支援者のコンセンサスを得る
- (4) 重点課題の定量的抽出および共通認識が可能(『重みづけ手法』による)
- (5) 重点課題の担当化と実施計画書(アクションプラン)が作成される
- (6) 業務のプロセスが見え且つ残る【アカウントビリティ(説明責任、透明性)の確保】

この目標展開検討は手法の体得の機会と位置付け、本協働ワークショップは時間的制約もありその作業の深さ、成果はある程度制限されたもの(簡略化)になっている点について参加者の了解のもとに実施されています。

2. 検討方法

本検討は以下のステップで関係者の協働作業で実施されています。

ステップ1:ブレインストーミングおよびラベル作成(複数回:2時間程度)

＜参加者(敬称略):大町s、今野s、神保s、松田(勝)s、五十嵐s、登坂s、
黒沼(ナビゲーター)＞

ステップ2:目標展開作業&展開図作成(まとめ)

＜、黒沼が主に実施＞

ステップ3:目標展開図(模造紙・記入ラベル&PCデータ)の発表&重点課題の定量的抽出(記入用紙&FAXにて)

＜参加者(敬称略):大町s、高山s、神保s、松田(勝)s、五十嵐s、榎森s、松田(一)s、
登坂s、黒沼＞

ステップ4:重み付け点数表の整理&検討報告書取り纏め

＜黒沼が主に実施＞

3. 検討結果

(1) 目標展開

ブレインストーミングを開始するにあたり、最上位の目標(レベル0)を『「安全・安心・笑顔」で暮らせる「やまがたプラン」づくりのために・・・』と設定し、参加者の自由な且つ広範囲にわたる意見を出してもらい、【目標展開手法】にて最上位の目標の実現のための手段を階層別に展開し添付資料-3に示しました。

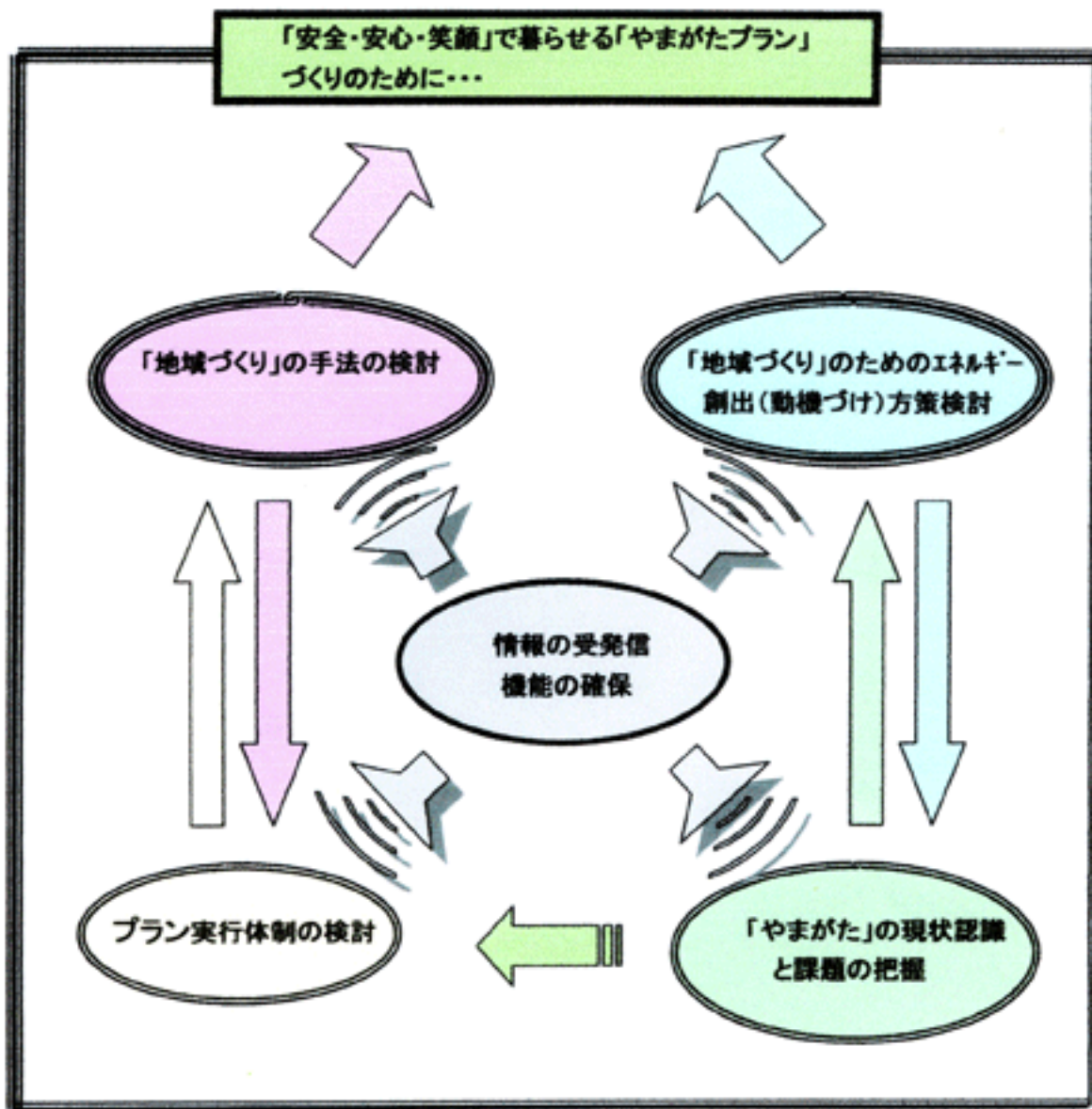
ここでは、階層構造で(レベル0からレベル5まで)記載しておりますが、レベル1はレベル0の実現のための手段であり、且つレベル2に対する目標になっています。

順次、この考え方で階層構造として捉えています。

(2) 目標展開図の内容を基に関係者の作業により重み付けを実施した結果から見えてくる本プロジェクトのコンセプト及び重点課題は次のようになります。

- (a)「子供の安全を守れるのはハード(システムを含む)ではなく地域のしくみ(声かけできるしくみ)である」というような考えこそ『子供の安全の確保』に繋がるということ、また、地域のまつりから近所の人とコミュニケーションを取るような「あいさつとありがとうあふれるまちがいい人間関係をつくる」という認識の下、子供の安全は『大人の社会に潜在する問題・課題』の鏡であるという視点を持って【「やまがた」の現状認識と課題(サンプル)】の意識化・啓発に注力する。
- (b)昔からの住民と新しい住民との間の交流会があればよい(昔からの住民は高齢者世帯が多く、新しい住民は核家族が多い)という指摘に耳を傾け「身近なところからの地域活動参加の機会づくり」のような『交流の機会設定の方法の掘り起こし』を進め、更に、周囲の人と会話や交流が生まれるような遊び場、集会場イベントを作る事が必要(cf.三川町のジャスコ)といった最近の事案が示すように「地域活動、お祭りなどで近所との関係作りをさらにすすめていく」こと、つまり、『イベント実施に必要なエネルギーが人づくり、まちづくりのトリガー(契機)になる』という分析・評価を活かして更なる【「地域づくり」のためのエネルギー創出(動機づけ)の方法】を模索する。
- (c)近所の人と仲良くすれば、帰宅するのも楽しいという諸先輩の声・事例を参考に「<仕事>と<地域づくり>の両立?の可能性検討」も視野に入れて『人材の確保と育成』を考え、また、継続性の確保に必須となる『財源の確保』を盛込んだ【プラン実行体制の検討】を実施する。
- (d)「本来日本社会がもっていた気くばりを復権していこう」といった社会の機運を活かして『現状に流されることなく「地域」がかつて保有していた良い「しくみ(手法)」の検証』を実施し、また、「対策のみが課題になり「予防」領域が語られない」という諸施策の現実を直視しながら『「地域づくり」の現状、実態調査の実施』を盛込んだ【「地域づくり」の手法の検討】を実施する。
- (e)最上位の目標実現のためには『地域へ参加する手段、仕組みを知らしめていく事が重要』という【情報の受発信機能の確保】にも努める。

以上のコンセプトの関係を図示すると次のようになります。



4. 検討詳細

4.1 目標展開経過

関係者7名でブレインストーミングを実施し、『「安全・安心・笑顔」で暮らせる「やまがたプラン」づくりのために...』という最上位の目標および本事業の実現のための課題・手段・問題点などをラベル99枚として作成しております。

これを基に階層構造の目標展開図を作成して発表し、討議を経て了解されました。

4.2 目標展開図

目標展開図を添付資料-3に示します。

時間の制約、討議の程度、参加者数などにより目標展開の深さは項目によってはレベル-2までの展開からレベル5までと一定になっておりません。

展開程度の浅い項目については重み付けを勘案しつつ、今後の事業遂行過程で具体的な課題

実現方法へ展開、反映させていく必要があります。

4. 3目標展開内容に対する重み付け

目標展開のレベル5までの項目について関係者9名で実施した重み付け作業の結果を添付資料-4に示します。

重み付けにあたっては全てのラベルに注目し、また、各人の書いた(発言した)ラベルや各人の関わる業務にとられることのないように注意して戴きました。

その結果から関係者の重み付けに基づく絞込みの内容は添付資料-4に示す様に基本的にレベル-1の順位を尊重しながらレベル-2以降の選定を実施しております。順次下位のレベルへ展開する際には上位が選ばれた項目の下位レベルについてのみ原則最高点のものを選定しています。

選定されたものについてはレベル-4までをサマリーとして添付-5に整理しました。

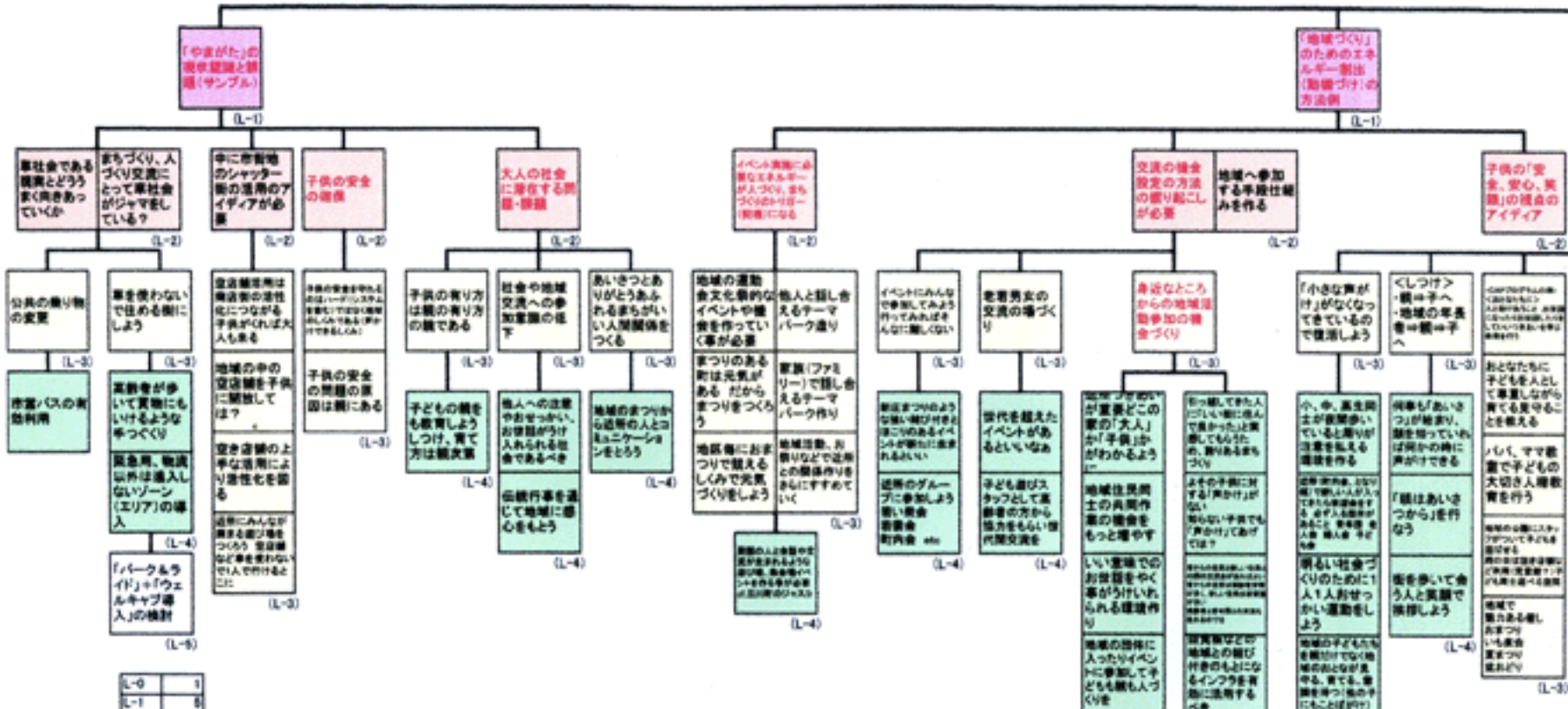
絞込み作業に際し、講師の裁量にて追加した項目もありますが、それは識別出来るように配慮致しました。

3項(2)にまとめられた本プロジェクトのコンセプト・ビジョン及び重点課題は添付-5に関係者の総意として整理されたサマリーから自動的に(恣意的操作なしで)作成されています。

以上の結果から上述コンセプト及び重点課題について、担当キーパーソン(KP)を決め、KPが次に添付するような計画書(添付-1)と作業工程表(添付-2)を作成し、着実に実行していくことにより設定した『「安全・安心・笑顔」で暮らせる「やまがたプラン」づくりのために・・・』という目標の実現が可能になると思われます。

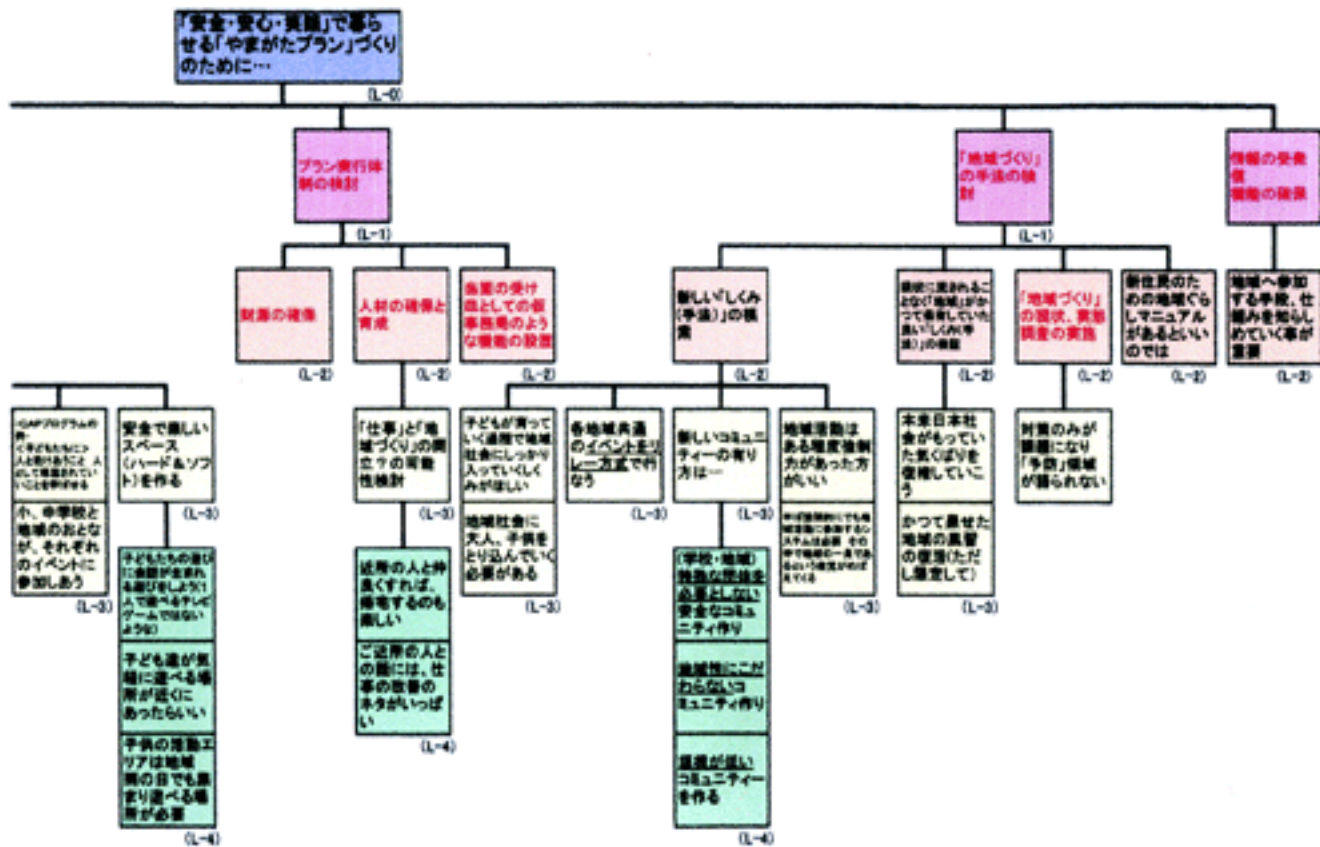
以上

No	
レベル-1項目	
レベル-2項目	
テーマ名	
現状	
実現方法	
KP&担当者	
目標スケジュール	
概略予算	
成果品の姿	



L-0	1
L-1	5
L-2	17
L-3	40
L-4	35
L-5	1
L-6	0
計	99

表札3-1-A(目標展開作業過程で作成)



	K	M	S	O	R	J	M	E	H	K	K	M	L	J	S	K	V	N	0	単純平均	加重平均	順位
「安全・安心・笑顔」で暮らせる「やまがたプラン」づくりのために																						
L-0																						
L-1	「やまがた」の現状認識と課題(サンプル)																				0.21111	
L-1	「地域づくり」のためのエネルギー創出(動機づくり)の方法例																				0.22222	3
L-1	プラン実行体制の検討																				0.21111	2
L-1	「地域づくり」の手法の検討																				0.23333	3
L-1	情報の受発信機能の確保																				0.12222	1
L-1	「やまがた」の現状認識と課題(サンプル)																				0.21111	5
L-2	車社会である現実とどう向きあっているか																				0.17778	0.03753
L-2	まちづくり、人づくり交流によって車社会がジャマをしている?																				0.10000	0.02111
L-2	中に市街地のシャッター街の活用アイデアが必要																				0.22222	0.04691
L-2	子供の安全の確保																				0.25556	0.05295
L-2	大人の社会に存在する問題・課題																				0.24444	0.05160
L-1	「地域づくり」のためのエネルギー創出(動機づくり)の方法例																				0.22222	
L-2	イベント実施に必要なエネルギーが人づくり、まちづくりのトリガー(契機)になる																				0.26667	0.05926
L-2	交流の機会設定の方法の創り起こしが必要																				0.30000	0.06667
L-2	地域へ参加する手段仕前みを作る																				0.23333	0.05185
L-2	子供の「安全、安心、笑顔」の視点のアイデア																				0.29000	0.04444
L-1	プラン実行体制の検討																				0.21111	
L-2	財源の確保																				0.32222	0.06802
L-2	人材の確保と育成																				0.43333	0.09148
L-2	当面の受け皿としての仮事務局のような機能の設置																				0.24444	0.05160
L-1	「地域づくり」の手法の検討																				0.23333	
L-2	新しい「しくみ(手法)」の模索																				0.26667	0.06222
L-2	現状に読まれることなく「地域」が広がって保有していた良い「しくみ(手法)」の検証																				0.30000	0.07000
L-2	「地域づくり」の現状、実態調査の実施																				0.27778	0.06481
L-2	新住民のための地域ぐるしコミュニティがあるというのでは																				0.15556	0.03630
L-1	情報の受発信機能の確保																				0.12222	
L-2	地域へ参加する手段、仕組みを知らしめていく事が重要																				1.00000	0.12222
L-2	車社会である現実とどう向きあっているか																				0.03753	
L-2	まちづくり、人づくり交流によって車社会がジャマをしている?																				0.02111	
L-3	公共の乗り物の変更																				0.53333	0.01126
L-3	車を使わないで住める街にしよう																				0.46667	0.00985
L-2	中に市街地のシャッター街の活用アイデアが必要																				0.04691	
L-3	空き店舗活用は商店街の活性化につながる子供がくれば大人も来る																				0.32222	0.01512
L-3	地域の中の空き店舗を子供に開放しては?																				0.15556	0.00730
L-3	空き店舗の上手な活用により活性化を図る																				0.25556	0.01199
L-3	近所みんなが集まる遊び場をつくらう 空き店舗など車を使わないで1人でいけることに																				0.26667	0.01251
L-2	子供の安全の確保																				0.05295	
L-3	子供の安全を守るのはハード(システムを含む)ではなく地域のしくみである(声かけできるしくみ)																				0.65556	0.03537
L-3	子供の安全の問題の原因は誰にある																				0.34444	0.01858
L-2	大人の社会に存在する問題・課題																				0.05160	
L-3	子供の有り方は親の有り方の鏡である																				0.28889	0.01491
L-3	社会や地域交流への参加意識の低下																				0.34444	0.01778
L-3	あいさつとあいさつあふれるまちがら、人間関係をつくる																				0.36667	0.01892
L-2	イベント実施に必要なエネルギーが人づくり、まちづくりのトリガー(契機)になる																				0.09026	
L-3	地域の運動会文化祭的なイベントや機会を作っている必要がある																				0.20000	0.01185
L-3	まつりのある町は元気がある だらまつりをつくらう																				0.12222	0.00724
L-3	地区毎におまつりで読めるしくみで元気づくりをしよう																				0.17778	0.01053
L-3	他人と話し合えるテーマパーク造り																				0.14444	0.00856
L-3	家族(ファミリー)で話し合えるテーマパーク作り																				0.14444	0.00856
L-3	地域活動、お祭りなどで近所との関係作りをさらにすすめていく																				0.21111	0.01251
L-2	交流の機会設定の方法の創り起こしが必要																				0.06667	
L-3	イベントにみんなが参加してみよう行ってみればそんなに難しくない																				0.21111	0.01407
L-3	若者男女の交流の場づくり																				0.27778	0.01852
L-3	身近なところからの地域活動参加の機会づくり																				0.30000	0.02000
L-3	近所づきあいが重要どこかの家の「大人」が「子供」がわかるように																				0.21111	0.01407
L-2	子供の「安全、安心、笑顔」の視点のアイデア																				0.04444	
L-3	「小さな声の叫び」がなくなってきているので復活しよう																				0.27778	0.01235
L-3	くしつけ→親→子へ→地域の年長者→親→子へ																				0.18889	0.00840
L-3	-CAJプログラムの例-おとなたち->人と助けあうこと お世話になつたりお世話したりをいっしょにやろう 義理を行う																				0.13333	0.00593
L-3	おとなたちに子どもを人として尊重しながら育てる見守ることを教える																				0.07778	0.00346
L-3	ババ、ママ教室で子どもの大切な人権教育を行う																				0.02222	0.00099
L-3	地域の公園にスタッフがいて子どもを遊ばせる側の日は空き店舗など何軒(児童館?)子ども同士遊ぶ空間																				0.04444	0.00198
L-3	地域で魅力ある催しおまつりや、夏会夏まつり盆おどり																				0.03333	0.00148
L-3	-CAJプログラムの例-子どもたちに->人と助けあうこと 人として尊重されていることを学ばせる																				0.07778	0.00346
L-3	小、中学校と地域のおとなが、それぞれのイベントに参加しよう																				0.05556	0.00247
L-3	安全で楽しいスペース(ハード&ソフト)を作る																				0.09999	0.00395
L-2	人材の確保と育成																				0.09148	
L-3	「仕事」と「地域づくり」の両立の可能性検討																				1.00000	0.09148
L-2	新しい「しくみ(手法)」の模索																				0.06222	
L-3	子どもが育っていく過程で地域社会にしっかりと入っていくしくみがいい																				0.11111	0.00691
L-3	地域社会に大人、子供をとり込んでいく必要がある																				0.33333	0.02074
L-3	各地域共通のイベントをブレイク方式で行なう																				0.08889	0.00553
L-3	新しいコミュニティの有り方は…																				0.20000	0.01244
L-3	地域活動はある程度強制力があつた方がいい																				0.07778	0.00484
L-3	半ば強制的にでも地域活動に参加するシステムは必要 その中で地域の一員であるという自覚がもたえてくる																				0.18889	0.01175
L-2	現状に読まれることなく「地域」が広がって保有していた良い「しくみ(手法)」の検証																				0.07000	
L-3	本来日本社会がもっていた気づき方を復権していく																				0.57778	0.04044
L-3	かつてあった地域の風習の復活(ただし限定して)																				0.42222	0.02956
L-2	「地域づくり」の現状、実態調査の実施																				0.06481	
L-3	対象のみが課題になり「手動」領域が読られない																				1.00000	0.06481

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	単純平均	加重平均	加重平均	加重平均
L-1 「やまがた」の現状認識と課題(サンプル) L-2 子供の安全の確保 L-3 子供の安全を守るのはハード(システムを含む)ではなく地域のしくみである(声かけできるしくみ) L-4 該当無し L-2 大人の社会に潜在する問題・課題 L-3 あいさつとありがとうあふれるまちがいい人間関係をつくる L-4 地域のまつりから近所の人とコミュニケーションをとろう	0.21111	0.05395	0.03537	—
L-1 「地域づくり」のためのエネルギー創出(動機づけ)の方法例 L-2 交流の機会設定の方法の掘り起こしが必要 L-3 身近なところからの地域活動参加の機会づくり L-4 昔からの住民と新しい住民との間の交流会があればよい。昔からの住民は高齢者世帯が多く、新しい住民は核家族が多い L-2 イベント実施に必要なエネルギーが人づくり、まちづくりのトリガー(契機)になる L-3 地域活動、お祭りなどで近所との関係作りをさらにすすめていく L-4 周囲の人と会話や交流が生まれるような遊び場、集会場イベントを作る事が必要cf.三川町のジャスコ	0.22222	0.06667	0.02000	0.00378
L-1 ブラン実行体制の検討 L-2 人材の確保と育成 L-3 「仕事」と「地域づくり」の両立?の可能性検討 L-4 近所の人と仲良くすれば、帰宅するのも楽しい L-2 財源の確保 L-3 該当無し L-4 該当無し	0.21111	0.09148	0.09148	0.0321
L-1 「地域づくり」の手法の検討 L-2 現状に流されることなく「地域」がかつて保有していた良い「しくみ(手法)」の検証 L-3 本来日本社会がもっていた気くばりを復権していこう L-4 該当無し L-2 「地域づくり」の現状、実態調査の実施 L-3 対策のみが課題になり「予防」領域が語られない L-4 該当無し	0.23333	0.07000	0.04044	—
L-1 情報の受発信機能の確保 L-2 地域へ参加する手段、仕組みを知らしめていく事が重要 L-3 該当無し L-4 該当無し	0.12222	0.12222	—	—